

日本酒の輸出拡大への貢献を目指してグローバルGAPを取得

岡山東農協(岡山県)

取組の概要

- 酒造好適米「雄町」の販売先からの依頼を受け、岡山東農協赤坂特産雄町米研究会がグローバルGAPを取得
- 酒造好適米の販売環境が厳しくなっても、グローバルGAP認証を高付加価値化へ結びつけ、安定的な販路の確保・拡大を目指す

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 JA岡山東が生産者のグローバルGAP取得をサポート

取組に当たり、JA岡山東が事務局として対応。グローバルGAP取得に必要な農場管理の規則の整備や資料のとりまとめなどを実施。

全農からコンサルタント会社を紹介してもらい、研修会、内部検査等を実施。

認証に向けたスケジュール管理もJA岡山東が担い、収穫時期から逆算して、スケジュールを設定するとともに、実際に認証を受ける生産者と一緒になって認証に必要な対応を行った。

JA職員及び生産者がグローバルGAP取得に必要な内部検査をできる内部検査員としての資格を取得予定(平成29年秋頃予定)。これにより、内部検査等の経費が縮減できるほか、生産者にとって理解が難しい専門用語などをかみ砕いて説明ができるなどのメリットが見込まれる。

2 若手農家を選抜

雄町米研究会会員25戸のうち、GAP認証取得に関心が高い若手会員7戸を選定して取り組んだ。(平成28年3月、会員25戸104haのうち、7戸40haがグローバルGAP認証を取得)

3 グローバルGAPの取得により無駄を削減

認証の取得には、生産や農産物の安全管理や労働安全、環境保全などについて、農場で約200項目、事務局で約100項目の審査項目のクリアが必要。

一つ一つの審査項目をクリアしていくうちに、農場の整理・整頓、過剰な資材の整理など、仕事のムダ・ムラが減るとともに、農産物の安全と労働の安全に対する意識も高まってきた。

4 グローバルGAP取得のPR

グローバルGAP認証を取得していることを内外にPRし、ブランドの確立、生産者手取りの向上を目指す。

取組の実績

<岡山東農協赤坂特産雄町米研究会(平成28年度)>

部会員(生産者数)	26人
うちグローバルGAP	7人
栽培面積	116ha
うちグローバルGAP	40ha
出荷量(30kg)	17,219袋